

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202618		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループ ホーム 菜の花 しのろ館 I		
所在地	札幌市北区篠路3条8丁目9番66号		
自己評価作成日	平成24年10月28日	評価結果市町村受理日	平成25年1月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail/2011_022_kanji=true&JigyosyoCd=0170202618-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町内会の一員として、町内行事に参加をし利用者が顔馴染みになってきている。お祭り等大きなイベントがある時は地域の皆様、ホームが双方で協力をしている等、外部との繋がりを大切にしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 24年 12月 11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者を始め全職員が、地域に密着したサービスの意義やあるべき姿を真摯に学びながら、地域の方々と接している姿勢の強さが見られます。地域の方々の良き理解を得て、ホームが地域の一員である証を確認することが出来ます。防災設備が良く整っていて、万が一の場合には住民との相互協力で助け合おうとする運営法人の理念がしっかりと根付いています。運営法人では人材の育成に特に力を入れており外部研修の受講や内部研修の充実を図っています。ユニット会議はユニット全職員の出席により開催され、この間の利用者の見守りは別のユニット職員がカバーするなど、ユニット間の交流とサポートも密なるものがあります。また、ヒヤリハットの記録では、事故を未然に防止するため、想定される「あらゆる可能性」について、全職員による検討が行われています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は法人理念、ケア理念を毎朝唱和し、理念を念頭に入れたケアが出来るように心掛けている。ケア理念の中から毎月のケア目標を立て実践している。	毎朝続けられる職員の理念唱和は、自らのサービスの質の有りようを確かめる大切な時間となっています。さらに実践に向けた目標を立てながら具体的な行動へと確認が行われています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃や行事に参加している。ホームの行事では町内会が参加し互いに交流を図っている。ホームの夏祭りは町内会の協力があり、町内会の夏祭りはホームが協力をしている。	町内の事業には積極的に参加しています。また、事業所の事業には町内住民が多勢参加してくれるなど、利用者、事業所そして地域との交流が年々拡充されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症についてのお話をしたり、介護相談を行っている事をお伝えしている。地域の方が見学などで来館された時など応じるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催の運営推進会議の中では行事や日々の様子、事業所として行った事を報告し意見や質問等をお聞きし、今後に役立てるようにしている。	2ヵ月毎に開催される運営推進会議では、ホームの現況報告のほかに地域との交流や当面の問題点など、活発な質疑が交わされており質の高い会議の内容が議事録から覗い知ることが出来ます。ただ家族の出席が少なく固定化されていることが気がかりです。	会議に毎回出席されている家族及びホームの行事に積極的に参加されている家族には敬服の他ありませんが、この会議がホームの運営の改善に大きな役割を担うことを考慮し、より多くの家族の出席が可能となるための取り組みを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手続き上の質問点を市町村担当に質問や相談をしサービスが円滑にいくようにしている。ホームの避難訓練では、区の広聴課の取材を受け日々の様子を伝える等、協力関係を築いている。	市とは、ホームで行われる災害対策の一環としての避難訓練の様子や利用者の暮らしの紹介が市の広報に掲載されるなど協力関係を築いています。区の担当者とも広報の取材等において仲介していただくなど良き理解者となっています。今後も外部評価を中心としたサービス向上への連携が予定されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部、内部の研修に参加し、身体拘束についての知識を深め、具体的な行為を理解する事で拘束のないケアに取り組んでいる。夜間は防犯の為、玄関に施錠をしている。	身体拘束のないケアへの取り組みは、外部研修や内部研修などへの積極的な参加により職員全体の共通認識として把握し実践されています。言葉掛けや見守り方法など利用者への抑圧感がないサービスのあり方を検討し実践されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止の研修に参加をする事で学ぶ機会を作っている。虐待に繋がったり、見過ごす事にならないように努めている。職員同士で日常勤務の中で話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んでいる。現時点では制度の利用はないが、必要時には利用を検討し、活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書について十分な説明を行い、納得いただいたうえで契約、解約を行っている。契約、解約後でも相談に乗っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会でご利用者やご家族の意見を聞く他、ご家族からのアンケート、介護計画の説明の際や面会時等の機会に意見を伺い、会議の内容は議事録で公表している。	家族の意見や要望をホームの運営に反映させようとする努力が窺えます。家族の訪問時や家族会での会話のほか独自で行うアンケートなど、あらゆる場面で意見や要望の把握に努力されている姿が垣間見えます。地域の住民、家族、ホームの職員が一体となって利用者を支えてゆく暮らしの場作りを推進しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り時、個人面談の際に職員の意見や提案を聞き、管理者会議や、リーダー会議で代表者に伝えている。	ユニット会議では、主に利用者の様子などが中心議題となっていますが、時にはホーム運営に関する案件も協議されるなど、職員間の風通しの良い環境が窺えます。また、運営法人の職員も管理者会議やリーダー会議への出席によりホーム運営に関する意見収集に配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場環境づくりの為に、ワーキング委員会が設置されている他、個別面談の実施等で職員の現状の把握に努め、処遇改善交付金、各種資格手当に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修として、新採用研修、スタッフ研修を行いスキルアップに取り組んでいる。外部研修の機会も多く積極的に参加が出来、研修後の報告会で情報を共有して能力の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	避難訓練の見学等で他のホームを訪問したり、研修時や懇親会で他のグループホームと交流が出来、ネットワーク作りをしたり、情報交換をする事でサービスの向上に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が暮らしている場所まで伺ったり、見学に来られた際に、不安な事や現状で困っている事、要望などをお聞きして、ホームでのより良い生活に繋がるよう関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームに面会にいらした際や、必要であれば電話などで不安や要望をお聞きしてご家族としての思いを受け止め、信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期利用前から話し合う機会を多く持ち必要とされるサービスを見極め、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除などできる力を引き出す事で共に助け合い生活をし、支えあう関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の思いやご本人の思いを受け止め共に支え合えるようにしている。ご本人の希望で教会のミサに行けるようにご家族と共に支援をするなど、支え合える関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お孫さんやひ孫さんが気軽に訪ねて来られ、居室やリビングなどで楽しめる他に昔からの友人が訪ねて来られ、関係が途切れないように支援をしている。	馴染みの記憶を持続できるように、家族と職員は努力をされています。居室に飾られた思い出の写真、植物を愛でる利用者への気配り、外出時では馴染みの神社参り、昔住まわれた周辺のドライブと昔話の傾聴など馴染みの関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の円滑な交流に橋渡しが多く必要となっているが、一人ひとりを把握し、場面ごとに合わせて支援して、関係の維持ができるようにしている。寝たきりのご利用者に優しく声を掛けて下さる、場面もある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからも電話や手紙などで関係を断ち切らないようにしている。退去されてからも電話で様子をお話しをしてくれ、相談を受ける事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に直接意向を伺う他に、困難な方には、日頃の小さな言動を把握し、本人本位になるように、会議などで検討をしている。	職員はより多くの時間を利用者との触れあうこととして、利用者の抱く思いや意向の把握に努めています。日々のモニタリングで得た些細な情報も職員間で共有し、アセスメントに反映されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族から情報をいただく他に、生活歴など、必要な情報をいただき、馴染みの暮らし、生活に近づけるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな事や、変化などを毎日の申し送り時や、カンファレンス時などで把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向や思いに合わせ、主治医や歯科医、看護師などと話し合い、意見をいただき、カンファレンスなどで検討し介護計画を作成している。	毎日のモニタリングはケース記録に加えられ、カンファレンスに向けたモニタリングも行われて、ケアプランの作成、見直しへと反映されています。その間、家族への情報提供など一体となったプラン作りが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人記録にその日の様子を記録し情報を共有している。気づきはアセスメントシートにおとして、ケアプラン見直しやケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	看取りと診断され、24時間対応の訪問診療に変更できるように支援を行なった。多機能化には多く至っていないが、状況に合わせ支援を行っていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りやイベントに積極的に参加をしたり、児童会館で子供達と積木遊びを通しての交流を行い、楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、病院やかかりつけ医を決めている。また、事業所の提携医療機関もあり、希望がない場合でも安心して利用できる医療機関も確保されている。	従来のかかりつけ医への受診は、利用者と家族の希望を聞きながら継続できるよう支援が行われています。また、ホームの協力医療機関での広範囲かつ親切的な訪問受診などにより、従来のかかりつけ医から移行する場合があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問時に、日々の小さな変化や受診記録などで、伝え相談して助言を受け、健康維持の為に連携して支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は個人の情報提供により、できるだけ安心して治療がうけられるように支援し、定期的に病院に訪問し、ご本人との関係維持と病院関係者との情報交換を行っており、退院後も連携をして生活支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期の方針について説明し、同意をもらっている。重度化や終末期の方がおり、方針や事業所でできる事をご家族と話し合い、確認を行い支援に取り組んでいる。	重度化などに対応した指針は、入居の際に家族に説明し同意書を得ています。また、終末期移行の場合や看取りに関する家族と医師を交えた話し合いが幾度も行われています。既に看取りの経験もありターミナルケアへの取り組み準備は出来ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部、外部研修で定期的に行っている。消防署に救命救急訓練を年1回受ける他普通救命救急講習を受けた職員もあり、急変時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練参加、火災訓練も定期的に行い町内会の方の自宅が避難場所となっている。防災用品、発電機、ジェットヒータを常備、地域の方に避難場所として利用できるよう配慮している。	地域住民の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練が行われています。この際には避難場所を予め定めており、避難に要する時間なども考慮するなど、臨場に向けた熱心さが窺えます。ホームでは緊急避難に備え住民の避難場所提供など地域との一体化が窺えます。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を通し、人格の尊重、プライバシー確保につなげ、職員間で注意をし合い、言葉かけ対応に配慮している。	職員は、人生の先輩である利用者を敬うことから始まる人格の尊重に配慮しています。また、トイレ介助、入浴支援など利用者のプライバシーの確保を常に配慮しながら支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定が困難な方でも少ない選択肢の中で選んでもらい、少しでも希望や自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況に合わせて過ごし方の支援を行っている。、職員側の都合が優先されず柔軟に対応できるように、業務の改善を行い取り組みを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時にお化粧や希望のヘアスタイル、洋服などを好みや希望を大切にして、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつを一緒に作ったり、食事の支度を一緒に行う他、車椅子の方も台所で高さに合ったテーブルを用意し、一緒に食事の支度や片付けを行っている。	運営法人の栄養士による献立と食材の提供を受け、職員が調理しています。個性豊かな瀬戸物の食器で彩の良い食事が利用者の食欲を増しています。台所では利用者も一緒になっての作業を見ることが出来ます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態、咀嚼、嚥下状態に合わせて工夫を行っている。水分摂取量が少ない方にはゼリーや果物、ジュースなどで確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせ仕上げ磨きや、毎食後の歯磨きが習慣になるように支援している。口腔内に変化があれば、歯科受診、往診に繋げている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツの使用がないように支援している。オムツが必要とされる方でも、間隔を把握してトイレで少しでも排泄できるように支援している。	出来るだけオムツに頼らないトイレでの自立排泄をうながす職員の努力が窺えます。排泄パターンの把握によりさりげないトイレ誘導など、一人ひとりに配慮した自立支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の運動、便秘体操を行う他に、青汁や野菜ジュース、牛乳など個々にあった飲み物を用意するなどして、便秘解消に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日などは決めずに、希望やタイミングに合わせて入浴していただいている。希望により、夏の暑い日には、午前中にシャワー浴をしていただく日もある。	広い入浴室のスペースは浴槽が中央に位置し、利用者や職員にとって利便性の高いものとなっています。入浴日などは設定せず利用者の希望を優先した入浴支援が行われています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明るさ、室温、湿度に配慮、就寝時間も個々で決め、眠れない時は、お話を聞き不安解消や温かい飲み物を勧めるなど、安眠に繋がるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋から薬の内容、副作用を把握する他、直接、薬剤師に相談を行っている。ご利用者個々がどんな薬を服用し、副作用についても職員が勉強会を開催		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせて、作品作り、お手伝い、教会へのミサへ通う、歌をうたうなど楽しみごとへの支援や役割が持てるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族と協働して教会のミサへ通う、墓参りに出かけるなど支援している他、地域の方と温泉に出かけるなど支援している。	利用者は温かな日差しの下での近所の散歩は欠かせません。住民の方々との挨拶、「お庭拝見」など親しみのある付き合いをしています。また、家族と礼拝や墓参りに出かけ、帰りには食事をするなど家族と過ごすための外出をしています。例年、町内会婦人部のお世話で日帰り温泉に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額だがお金を所持され希望により買い物に同行し支援している。所持されていない方は、預かり金で買い物ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人との電話を取り次ぎ支援する他に、手紙のやり取りができるように支を援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度、明るさなどに配慮する他に季節のお花を飾る、季節の作品を飾るなどしている。清潔な空間づくりにも配慮して、掃除や整頓を心がけ、落ち着いたゆったりとできる空間づくりに努めている。	リビングや廊下などの清掃は、職員と共に利用者も協力しています。広いリビングや重厚な木製の食卓が利用者にとって居心地の良い場所となっています。時期にあったクリスマスの飾りなどは派手過ぎずに壁を飾り、ゆったりとした空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりとできる空間や個人で運動ができる空間、1人でのんびりと外を眺める事のできる空間を作り、自由な場所で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んでもらっている。ご家族の写真を飾ったり、仏壇を持ってこれ、心地よく過ごせるようにご本人やご家族と相談して工夫をしている。	利用者の居室は清潔で整理整頓が行き届いています。観葉植物の鉢が窓辺一杯に並んでおり、写真、家具、仏壇など利用者の身近な生活が覗える居室となっています。ベットや家具の配置も家族と相談の上、これまでの暮らしと相違がないようなレイアウトに配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できる、わかる可能性を見極め力を引き出すようにしており、目印や文字を活用、手すりも各所あり、車椅子の方が動きやすいように工夫している。		